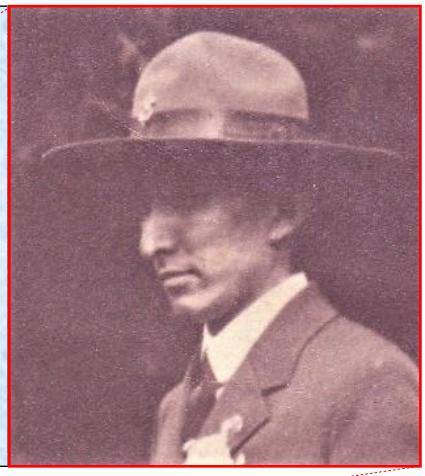
【令和４年度第２回企画展併催】 R4.7.15～10.16

シリーズ 後藤新平人脈考⑧

三島 通陽（みちはる）

新平の少年団日本連盟初代総長時代、副理事長として常に側に寄り添い支えた人物。祖父通庸は警視総監、父弥太郎は日銀総裁を務めたサラブレッド。少年団の第4代総長を務めるなど、一生をボーイスカウト育成に捧げた。

東京出身。祖父は明治の警視総監三島通庸。父は第8代日本銀行総裁を務めた三島弥太郎。学習院退学後、文部省に入る。1920（大正9）年日本初の少年団（弥栄ボーイスカウト）を創設。1922（大正11）年には東京市長後藤新平を総裁に推挙し、赤坂離宮に英皇太子奉迎。同年少年団日本連盟と改称、後藤を総裁、後初代総長に戴く。この時三島は25歳で、ボーイスカウト日本連盟初代副理事長兼中央実習所所長に選任された。1925（大正14）年後藤が満鮮の旅に上る際、随伴し、京城少年団を検閲。1950（昭和25）年第4代総長を務め、一生をボーイスカウト育成に尽力。1961（昭和36）年ボーイスカウト国際大会でブロンズ・ウルフ賞を受けた。戦前は貴族院議員。戦後は参議院議員、文部政務次官。昭和40年、毎日新聞での「ボーイスカウト十話」連載執筆が絶筆となる。小説家・劇作家・子爵。



【新平最後の写真】

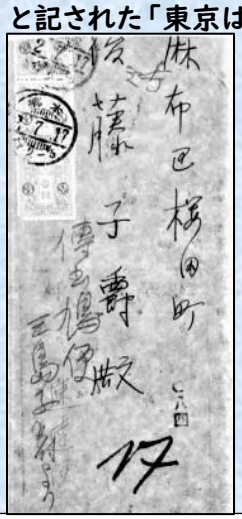
三島は、ボーイスカウト活動では、新平の最側近という立場で、常に隣に侍っている。この写真は、三度目の脳溢血に斃れる直前の昭和4年4月3日のものである。東京市政調査会は、その日のことを次のように記録している。

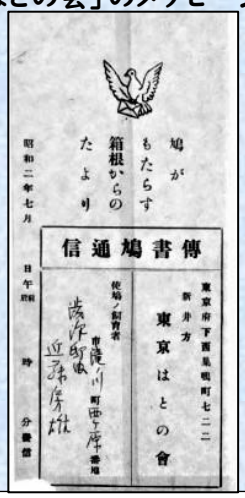
「（前略）午後再び前記祝賀会場に至りて一同と撮影の後余興見物に興じたりしが、大礼服着用の伯爵を見たしとの健児等の希望を容れて自邸に引返し、大礼服正装の上午後三時半洋館玄関前に於て一同を視閲し、一同非常なる満足裡に解散したり。此の時の正装の撮影こそ実に伯爵最後の写真となりしなり。」

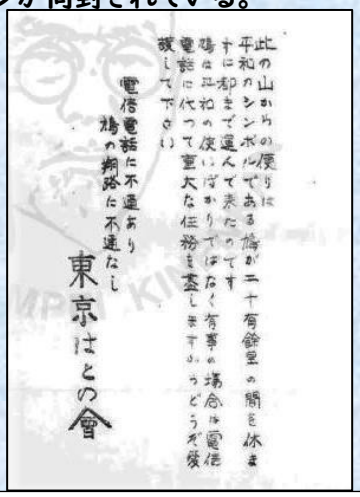
この日の夜、岡山に向けて出発する列車に乗車するのであるが、見送りに来た三島を呼び、「よく聞け、金を残して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ。よく覚えておけ」と言ったのが、車中で倒れる前の最後の言葉になった。三島は、急報ですぐに病院に駆けつけ、新平の最期を整えた。

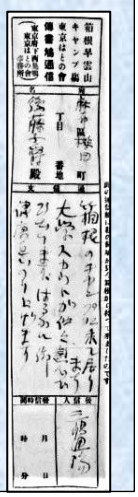
【箱根キャンプ場だより】（三島から新平へ）昭和2年7月17日

箱根山雲仙キャンプ場からの通信。「箱根のキャンプに来て居ります。大学スカウトが仲々熱心で御去います。はるかに御健康をいのり上げます。」と記されている。伝書鳩通信を使ったのは遊び心か？「電信電話に不通あり、鳩の朔路に不通なし」と記された「東京はとの会」のメッセージが同封されている。









【夏休み新平小検定スタート】（市内小学5・6年生対象）

過去最大の罹患者数を記録するコロナ第7波が押し寄せてきました。様々な制限が課された生活を送る子ども達に、少しでも楽しい体験をさせたいと思っています。どうぞこれ以上ひどい状態になりませんように!!